

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(1) 歯科医の訪問歯科診療の実施状況

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>1. 訪問歯科診療の対応表：平成30年7月版を作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月中旬 介護事業者連絡会を通じて配布 ・医師会、薬剤師会へ配布依頼 ・関係機関へ配布 <p>2. 対応表と各医院のホームページ、歯科医師会ホームページの医院情報については、チェック、確認し順次修正。</p> <p>3. 衛生士会との連携やフリーの歯科衛生士の発掘、専門的な口腔ケアができ、施設職員や家族に指導できるような人材の養成に取り組む。人材養成は難しいが、衛生士会と定期的に会議をもち、情報交換、研修会、情報の共有、個々のレベルアップ、連携を行う。</p> <p>⇒ 歯科医師会は、小牧市。衛生士会は尾張北部と活動拠点が異なるため、小牧市内で活動できる衛生士が少ないなど連携が難しい状況にある。</p> <p>4. 将来的には、歯科衛生士がいない歯科医院の派遣依頼にも対応できるよう人材バンクのようなものを整備できるとよい。人材バンクは理想であるが、断念</p> <p>5. 介護施設職員への口腔ケア等、研修機会の希望の有無の確認（19件回答）</p> <p>6. 訪問診療ニーズの把握をする必要があると考えており、調査を検討している。</p> <p>⇒ ニーズの把握方法に課題</p>	<p>【佐々木委員】</p> <p>1. 対応表：令和元年7月版を作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護サービス事業者連絡会を通じて配布 ・医師会、薬剤師会に配布 ・関係機関に配布 <p>2. 順次、確認修正する。</p> <p>3. 衛生士会との会議を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会等の情報は随時連絡。 ・小牧市内で活動できる衛生士を確認する。 <p>4. 断念</p> <p>5. 平成30年にアンケート実施 強い要望がないので、今年度は予定なし</p> <p>6. 個々の歯科医院での対応とはなるが、訪問診療の件数は増加傾向にあるので、ニーズ調査は行わない。</p>	<p>【佐々木委員】</p> <p>1. 対応表で、より正確な情報を提供できるようにする。配布箇所を精査する。</p> <p>3. 衛生士会の会員の多くが医療機関勤めの衛生士であり、活動には制約があり、フリーの衛生士を発掘したいが、会に属していないので難しい。</p> <p>5. 要望件数は多くないので、どのように対応すべきか検討する。</p> <p>6. 在宅で暮らす高齢者で歯科治療や口腔ケアが必要な方はかなりいらっしゃるかと推測されるが、どうすればニーズを顕在化できるか検討していく。</p>	<p>佐々木委員</p>

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(2) 薬剤師の訪問薬剤管理指導の実施状況

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>アンケートの結果は、市や包括、保健センターなどに設置して活用していただきたい。</p> <p>49 保険薬局のうち 40 薬局は在宅患者訪問薬剤管理指導の届出を出している。実際に在宅の受入れができる薬局は 16 薬局で、このうち 24 時間対応できる薬局は 8 薬局である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有志による在宅医療介護連携委員会を開催。全 9 薬局が参加し、在宅の受入れ体制について協議した。 ・無菌室保有薬局は、メンバーにおらず、検討課題である。 ・麻薬については、緊急時のための小売業者間の譲渡申請について協議した。 <p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員の資質の向上 ・比較的安定した患者様からでも良いので、会員の在宅経験の積み上げが必要である。 ・無菌保有薬局との連携 ・介護事業所等との連携強化 	<p>【浅井（宏）委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こまきつなぐるくん連絡帳登録会員への周知 <p>⇒ 登録薬局：19 薬局に増加したが、38%にとどまっており、更なる周知を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療推進委員会の拡充 <p>* 参加者名簿は別紙のとおり</p>	<p>【浅井（宏）委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会メンバーを中心に、在宅医療の経験を積み上げてきているが、休日、夜間の対応が課題 	<p>浅井（宏）委員</p>

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(3) 各介護保険サービス事業所についての情報共有

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>【伊藤（里）委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 6/17 こまき介護展を実施。 今年では来場者が350名を超えることができた。 市民へ介護保険制度をアピールするための企画だが、事業者間相互のネットワークの強化と情報交換の場となっている。 毎月、各事業所部会が研修を企画している。 研修は事業種にこだわらず参加を呼びかけており、多職種が一堂に会して学習する機会となっている。 研修テーマも「感染症管理」や「コグニサイズ・認知症予防レクリエーション」等、医療と介護の連携を意識したものも実施している。今後の研修も各部会で企画検討し、専門職ネットワークの強化をめざしていく。 <p>【包括】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内居宅介護支援事業所が5グループに分かれて、3か月に1度の頻度で事例検討会を行っている。各グループの中に、いずれかの包括が参加し、ケアマネジャーとの情報共有、連携を図る機会を作っている。 包括で圏域内の介護保険サービス事業所との交流会を企画している所もある。今後は、包括全体で事業所や専門職間の交流や情報交換の場が企画できるようにしていきたい。 	<p>【伊藤（里）委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 6/30 こまき介護展を実施。 R元は来場者320名。 市民向けに介護保険制度をアピールする働きかけとして、1/21・23 に小針の郷にて「介護保険制度の紹介」を実施予定。 訪問看護部会にて11月に「エンドオブライフ・ケアはじめの一步」をテーマに医療・介護連携の研修を実施予定。 施設部会では「認知症について」、訪問介護・訪問入浴部会では「褥瘡予防」をテーマに研修会を予定している。 <p>【小林委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 居宅介護支援事業所の事例検討会に参加し、情報共有、連携強化に向けて取り組んでいる。 地域包括支援センターとして、4つの部会を設けており、その1つであるケアマネジメント支援推進部会で、ケアマネジャーを対象に事業所交流会を企画し、9/2 に小牧、南部、北里包括圏域で実施。内容としては、自立支援のための社会資源活用について。 今年度は、12/11 に篠岡、味岡包括圏域で実施予定。 	<p>【伊藤（里）委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険サービス事業者連絡会の研修は事業所向けの内容を中心に実施しているが、今後も訪問看護部会などを中心に医療・介護連携の課題を研修テーマに盛り込んでいきたい。 事業者全体的にはこまきつながるくん連絡帳の活用がまだまだ進んでいない。 <p>【小林委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ立場のケアマネジャーとしてではなく、包括職員として参加していると考えているケアマネジャーが多いように感じる。連携強化に向けて、居宅と包括の垣根が無い、関係性の構築が必要と考える。 現状は、ケアマネジャーだけであるが、介護保険サービス事業所も含めた情報交換の企画が必要と考える。また、研修テーマについて、他の研修等の内容も考慮する必要がある。 	<p>伊藤（里）委員 小林委員</p>

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(4) 医療・介護資源の情報収集・管理

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規開業クリニック（2箇所）を訪問し情報収集した。 平成 28 年度に実施したアンケート結果に基づくものであるが、在宅診療・往診等の実施状況に関する情報については、市ホームページ等で公表している。 アンケートを実施したのが、平成 28 年度であることから、最新の情報に更新していく必要がある。 <p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療・介護資源の情報については、医療・介護関係者、市民に対し必要な情報を提供するため、こまきつながるくん連絡帳にリスト・マップを構築するよう、業者と調整をしている。 また、紙媒体で作成していたケアマネジャー等の医師との連絡調整に必要な情報を取りまとめた「医師とケアマネ一覧」に掲載している内容について、こまきつながるくん連絡帳に機能を追加するよう調整している。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度「在宅医療に関するアンケート」を医師会員の先生方に実施回答待ち。毎年県医師会依頼の実態調査もあわせて実施した。 こまきつながるくん連絡帳の登録についての質問もアンケートにもりこんでいる。 <p>【入江委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> こまきつながるくん連絡帳の運営事業者の移行に伴い、こまきつながるくん連絡帳と医療・介護マップが一体管理となったことから、登録率向上に向け、チラシを作成し、サービス事業者連絡会、ケアマネジャーの総会において配布し、周知を図った。 小牧市医師会のご協力のもと、医師会理事の先生方を個別訪問し、登録支援を行った。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> こまきつながるくん連絡帳の登録について、登録する予定はないとの意見も多くある。今後登録する予定がない理由について、聞き取りをするとともに、対応策については、関係機関の協力が必要である。 <p>【入江委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮称）駐車場シェアシステムの構築と併行して、全医療・介護事業者の登録を目指しているが、市の個別訪問登録だけでは時間を要することから、関係機関の協力をお願いしたい。 (こまきつながるくん連絡帳の利活用もさることながら、まずは、登録を促進したい) 「医師とケアマネ一覧」の電子化に向けて、医療機関の診療時間、相談可能な手段、時間帯などについて、最新の情報を各医療機関に聞き取りをする必要がある。 	<p>磯村委員 入江委員</p>

(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

(1) 医療・介護の関係団体との連携

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポートセンターは地域ケア会議への参加はまだできていない。 ・個別で訪問などを実施する中で、いくつかの地域包括支援センター、医療・介護事業者などと協議はしているが、定期的な情報交換等をする機会を設けていない。 ・サポートセンターの役割などを明確化し、地域包括支援センターや医療・介護事業者に対して示す中で、必要に応じ、地域ケア会議やサービス担当者会議に参加できるようにしていく必要がある。 ・そのためにも、地域包括支援センターや医療・介護事業者との情報交換や、連絡調整を行う機会を設けていく必要がある。 <p>【包括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア個別会議では、主に「認知症、独居、災害時対応、健康管理＝安否確認」がテーマになることが多いが、「ターミナル期」の見守り体制についても話題となっている。 ・今後も、“独居でも、自宅で最期を迎えたい”という方は増えてくることが予想される。実際、担当者会議でも、そのための体制作りに触れる機会が増えている。 ・ケアマネジャーには、介護保険サービスにはない見守り体制（ネットワーク）作りのためにも、地域ケア個別会議を活用してもらえるように、事例検討会や担当者会議でも継続して働きかけ、提案していきたい。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポートセンターとして相談対応で認知症の相談をうけることが多い。医療・介護関係者との情報共有をするために、連携の強化は必要である。 <p>【小林委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア個別会議を各包括開催している。（主要課題については、左記のとおり） ・自宅で最期をと希望される方は増えている。 ・ケアマネジャーからの地域ケア個別会議の開催依頼は少なく、包括の事例、もしくは、ケアマネジャーに対し、提出をお願いし、開催している。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、サポートセンターとして、地域包括支援センター管理者会議で、相談対応の情報共有をするとともに、他機関への連絡調整など、ネットワークが必要である。 <p>【小林委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題について、資源開発・政策形成を市全体で検討する場がない。 ・担当者会議等を通じ、医療・介護の連携体制づくりを推進する必要がある。 ・医療・介護の連携強化の為に、こまきつながるくん連絡帳の活用促進が必要であると考えます。 ・地域ケア個別会議の有効性を見える化し、ケアマネジャーにとって、地域ケア個別会議を活用したいものとなるよう包括として、検討する必要がある。 	<p>磯村委員 小林委員</p>

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

(1) 医療機関と訪問看護・ケアマネジャーの連携

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療と介護の連携のために、主任介護支援専門員で立ち上げた研修企画に参加させていただき他職種を知ることが出来た。今後、ニーズにあった「医療・介護勉強会」を開催することにより、お互いの理解を深め、連携を強化したい。 訪問看護とケアマネジャーの連携強化に向けて、勉強会だけではなく、サポートセンターとして取り組む必要があると考える。 <p>【大野委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度はケアマネジャーを軸に、病院、薬剤師、訪問看護師と情報交換会を行ったが、ケアマネジャーから研修過多との意見があり、平成30年度は開催していない。 昨年度のアンケート結果では、「互いの役割がよくわかった」、「連携が取りやすくなった」と高評価であり、今後も顔の見える関係づくりを進めるためにも多職種の情報交換会は必要だと思われる。 特に、訪問看護とケアマネジャーの連携は重要であり、今後、医療・介護連携チームの中核として位置付けていくためにも、より顔の見える関係づくりをしていきたい。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「医療・介護勉強会」を開催し、医療について専門分野の在宅に必要な基礎知識を学ぶことにより介護との連携を強化した。 今後も専門分野の在宅に必要な基礎知識をテーマに勉強会を継続する予定。 <p>【大野委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度においてもケアマネジャーを軸とした医療機関、訪問看護師との情報交換会は開催していないが、＜市主催＞の多職種連携カンファレンス、＜在宅医療・介護連携サポートセンター主催＞の在宅医療・介護連携研修会及び医療・介護勉強会、＜保健所主催＞の多職種意見交換会や＜訪問看護部会主催＞の研修会等を連携の機会と考えて個々で参加している。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪問看護とケアマネジャーとの連携強化において、サポートセンターとしての「取り組み」には至っていない。サポートセンター会議で抽出した課題をお互いに共有し対応策を話し合う場が必要である。 <p>【大野委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療依存度の高いご利用者において、日常生活援助における医療的なアセスメントや判断が必要不可欠であることから勉強会・研修会等を通して、更なる訪問看護師とケアマネジャーの打ち解けた関係づくりを基本とした情報共有への取り組みが必要である。 	<p>磯村委員 大野委員 岡委員</p>

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

(2) 副科受診の支援

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> 副科紹介ツールを活用し 30 年 4 月からは耳鼻咽喉科（3 件）眼科（1 件）を紹介をした。 副科の対象拡大に向けては、今後、対象科の選定を含めて、関係機関と調整していく必要がある。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 副科紹介ツールの活用は継続している。副科の対象拡大にむけて、婦人科、皮膚科、関係機関と調整している。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 紹介ツールの書式の複雑さについて課題があり、わかりやすいツールの検討が必要である。 	磯村委員

(3) 摂食嚥下サポートチームの活動支援

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> 小牧ごっくんサポートチームは現在新たに専門職に参加を依頼し、25 名（16 の専門職）になった。 チームが構成されたものの、具体的な活動展開に向けては、それぞれ通常業務を抱えた中での活動であることから、課題が多い。 出張勉強会についても、対象施設の選定や、講師役となる人員の確保が課題であると考ええる。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小牧ごっくんサポートチームは定期的に会議を開催し、今年度「摂食嚥下評価スコア 2019」（小牧ごっくんサポート版）を作成し、試験運用している。 出張勉強会は「摂食嚥下」について 5 回シリーズで開催した。今後も 2 か所目の施設にて開催予定。 今年度「評価スコア 2019」の試験運用を継続し、医療介護関係者に研修会を行なう予定。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 出張勉強会について、講師役となる人員についてはそれぞれ通常業務を抱えた中での活動である。 今後、「小牧ごっくんサポートチーム」会議を継続し対応策を協議する。 	磯村委員

(工) 地域の医療・介護関係者の情報共有の支援

(1) 病院とケアマネジャーの連携

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> ・6月7日：医療と介護の連携シートの活用状況について意見交換を行い、それぞれの役割について確認をした。 ⇒ 連携シートの使い方について周知が不十分。マニュアルを作成し、手順の周知を図る必要がある。ICT の活用がなかなか進んでおらず、実用レベルまでの底上げが必要。 ・今後は手続きをマニュアル化するなど効率的に業務が進められるようにすることも必要である。 	<p>【田中委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き医療・介護の連携に関する実態調査を実施。医療と介護の連携シートの活用状況を調査した。 ・昨年度との比較をすると、「入院時にシートを病院へ送っている」が 54%→79.2%に。「退院時にシートもしくはサマリーをもらっているか」が 28%→83.3%に上昇。連携の意識としては確実に向上している。 ・こまきつながるくん連絡帳への登録も半数程度であり、今後更に活用に向けた働きかけが必要。 	<p>【田中委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療と介護の連携シートの項目がケアマネがほしい情報と一致していないところがある。今後、利用しながら修正を図っていきたい。 ・こまきつながるくん連絡帳に登録していない理由として、「事業所の方針」という項目が数件あり、事業所単位で協力していただけるよう理解を求めていくことも必要。 	<p>田中委員</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年 4 月から 10 月までの 7 ヶ月で、120 件の連携シートが活用された。(うち、市内 103 件、市外 10 件) ・様式の異なる連携シートも提出されているが、当院では、問題なく活用されている。 ・連携シートにとどまらず、患者の思いをどのようにつなげていか、患者・家族を交えたところで行えるとよいと思う。 ・今後、ACP を進めていくにあたり、連携シートに記載しきれない患者の思いをどのように伝えていくかを考えていく必要がある。 	<p>【三谷委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度：市内で 226 件の連携シートが活用された。 ・ほとんどの事業所で「医療と介護の連携シート」が使用されている。 ・2019 年 4 月から 9 月まで：93 件 ・現在、ACP を少しずつではあるが進めているが、この場合、連携シートに記載するのではなく、「ACP サマリー」で連携を行っていく予定である。 	<p>【三谷委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携シートの項目については、医療と介護の話し合いを行い、質的評価を行っていく必要がある。 ・患者、家族の思いを地域の中でつなげていくにはどうしたらよいか検討する場が必要である。 	<p>三谷委員</p>

(I) 地域の医療・介護関係者の情報共有の支援

(2) ICTの運用（機能強化）

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>・活用促進に向けた出張 説明：36 か所</p> <p>・登録施設数：102 か所</p> <p>・登録患者数：62 名</p> <p>※H30.10.11 時点</p> <p>・会議、専門職間の連携ツールとしての活用が広がってきている。</p> <p>・認知症初期集中支援チームと地域包括支援センターとの患者情報の共有が開始された。 (患者数 2 件)</p> <p>・医療・介護情報の提供、会議案内や在宅医療・介護に関する取り組み状況の報告など、こまきつなぐるくん連絡帳の活用方法や付加価値を高めるため、検討をしている。</p> <p>= 介護支援専門員連絡協議会からの提案 =</p> <p>ケアマネジャーによって連携シートやこまきつなぐるくん連絡帳を活用する意識に差がある。</p> <p>繰り返し啓発するとともに、研修案内などもこまきつなぐるくん連絡帳を利用するなど、意図的に活用を促していきたいと考えている。</p> <p>使用にあたって、行政の協力を願いたい。</p> <p>= 地域包括支援センターからの提案 =</p> <p>尾北では、サポートセンターが中心となって、ICTの積極的な利用促進を図っており、患者情報のやり取りが進んでいる印象がある。</p> <p>サポートセンターには、そういった機能も期待する。</p>	<p>【入江委員】</p> <p>・活用促進に向けた出張 説明：47 か所</p> <p>・登録施設数：148 か所</p> <p>・登録患者数：105 名</p> <p>※R 元.10.1 時点</p> <p>・会議、専門職間の連携ツールとしての活用が広がってきている。</p> <p>・今年度はモデル的に、会議案内について、こまきつなぐるくん連絡帳を活用して周知するよう操作方法や文面案を作成し、サポートセンターに依頼している。</p> <p>・電子@連絡帳の広域活用を目指し、尾張北部（春日井市、岩倉市、小牧市）、尾張東部、尾張中部の市町と連携協定を締結した。</p> <p>【磯村委員】</p> <p>・今年度、10 月の研修会から今までの通知方法とこまきつなぐるくん連絡帳での通知方法を開始した。</p>	<p>【入江委員】</p> <p>・着実に、登録施設数及び登録患者数が伸びてきている状況であることから、利用者には、有効な手段になりつつあると認識している。</p> <p>・運営事業者の移行に伴い、医療・介護マップと電子@連絡帳の登録が連動したことを受け、まずは、全施設登録を目指したく、更なる関係機関の協力をお願いしたい。</p> <p>・今後、さらに利用者や患者数を増やすため、仮称) 駐車場シェアシステムの構築などをはじめ、利用者に魅力的なシステムにしていく。</p> <p>・広域化に向けては、構成市町ごとで運用規定等が異なることから、運用に際し、生じた課題については、連携市町間で協議していく必要がある。</p> <p>【磯村委員】</p> <p>・医療機関など「こまきつなぐるくん連絡帳」に登録しないと回答される方への研修会、勉強会の周知方法についても考える必要がある。</p> <p>・尾北の情報ツールは「MCS（メディカルケースーション）」で医療圏（2市2町）の事情があり、尾北医師会が関わっている。今回のアンケート結果にて登録を依頼していく。</p>	<p>入江委員 磯村委員</p>

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(1) 在宅医療・介護連携サポートセンターの運営

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口対応を継続し、平成30年4月から11月までに、30件の問い合わせや相談があった。 問い合わせ件数が少ない状況であることから、関係事業所や市民に対し、サポートセンターの相談窓口としての機能を普及啓発していく必要がある。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談窓口対応を継続し、平成31年4月から9月まで、約25件の相談や問い合わせがあった。 相談件数が少ないが、医療介護関係者の顔のみえる関係ができつつあり、サポートセンターを介さず対応ができていることも考えられる。 今後とも関係事業所や市民に対し、サポートセンターの相談窓口としての機能の普及啓発を継続する。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談内容について幅広い相談があることから、対応できるように医療介護関係機関と情報共有が必要である。 	磯村委員

(2) 在宅医療・介護連携サポートセンターと地域包括支援センターの連携

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度から、医療に加えて、介護も担当することになり、更なる連携強化が必要と考えているが、具体的な取組みは出来ていない状況である。 <p>【包括】</p> <ul style="list-style-type: none"> サポートセンター会議では、サポートセンターが中心となり医療や介護の各機関と顔合わせができ情報交換の場としても活用できている。 サポートセンターが企画している研修会の場も有効に活用できている。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療介護勉強会の企画も連携の場となっている。 サポートセンター会議を開催し包括支援センターとも情報交換し連携をとった。 . <p>【小林委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 包括の管理者会・サポートセンター会議に互いに参加し、相談、連絡がしやすい関係づくりに努めている。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターの役割のなかで、サポートセンターが協働してできることについて具体的な取組みまでできていない。 <p>【小林委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状では、互いの活動内容の報告程度であり、連携に向けた具体的な取組み等の協議をしていく必要があると考える。 	磯村委員 小林委員

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(3) アウトリーチ型の相談体制の充実

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>【田中委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在行っている巡回相談では、事前周知をしっかり行うことで、相談件数も増え、相談内容も濃いものが寄せられてきている。 ・当初は関わる専門職が所属の事業所の枠を超えることができなかったが、少しずつ生活上の相談に応じる福祉専門職としての関わりができるようになり、相談を受けてから専門窓口へつなぐことができるようになってきた。 ・次年度は住民の身近な相談窓口として全サロンへの展開を進めたい。 <p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小牧第一病院での相談会は平成30年6月で一旦終了となった。再開時期については未定である。 ・小牧市社会福祉協議会が主体となってモデル的に実施しているサロン巡回相談に、市の保健師に同行させて頂き、サポートセンターの啓発活動を行っている。 ・西部地区のサロンに参加した際に、在宅医療・介護に関するパンフレットを手渡すとともに、サポートセンターのチラシを配布したが、「知らなかった」という市民の方が多数あり、サポートセンターの周知が必要であると考える。 	<p>【田中委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、市内のふれあいいきいきサロンは79ヶ所。(昨年度73ヶ所) ・サロンの巡回相談については、地域支え合い推進員4名と5包括で行っている。 ・5～9月まで144ヶ所、相談件数86件。キャッチしたニーズはこまきつながるくん連絡帳を活用し、関連する専門機関と共有している。 <p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターに同行し、市民にサポートセンターの啓発を行なった。 ・サポートセンターのちらしと啓発グッズを手渡し介護関係者と市民につながるよう、各事業所へ訪問した。 ・第一病院の外来のテレビに、市制日より放映を活用しサポートセンターの紹介を加えて今年度放映している。 	<p>【田中委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロン側の巡回相談に対する理解が浸透しておらず、今後もサロンでの専門職相談を継続し、地域の身近な相談窓口として定着を図りたい。 ・こまきつながるくん連絡帳を利用し相談を共有しているが、報告のみに終わりがちで、そこから支援や専門職ネットワークづくりに展開できていない。今後、ICT上の連携も課題となっている。 <p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだまだサポートセンターの周知が必要である。 	<p>田中委員 磯村委員 小林委員</p>

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(3) アウトリーチ型の相談体制の充実

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>【包括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロンの巡回相談では、事前にチラシを回覧したことで、専門職がサロンに巡回してくることが少しずつ周知されてきた様子。 ・各サロンで、数件ずつの相談が入っている。現在、20件弱の相談があり、内容により適切な機関へつないでいる。 ・サロンを運営している側も、気になることを抱え込まずに巡回相談の機会を待つようなこともできてきているのではないかと。 	<p>【小林委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市が実施した調査では、包括の認知度が3割弱と低い状況にある。 ・そのため、包括として、待っているだけでなく、各圏域で創意工夫し、相談体制の充実を図っている。 <p>【具体事例】</p> <p>銀行、病院、コミュニティセンター、量販店</p> <p>サロン巡回相談として、社会福祉協議会の地域支え合い推進員と連携し、定期的にサロンを巡回している。その結果を、こまきつながるくん連絡帳を活用し、巡回相談の内容の共有、相談対応に向けて、適切な機関へつなぐことが出来ている。</p>	<p>【小林委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重度化してからの相談ではなく、早期に相談を入れていただけるような相談機関となるよう、認知度を上げていくため、アウトリーチの強化が必要である。 ・サロンの企画によっては、相談を受けづらい雰囲気もあり、サロンの内容を把握し、巡回の日程を調整する必要があると考える。 	<p>田中委員 磯村委員 小林委員</p>

(カ) 医療・介護関係者の研修

(1) 多職種連携研修の実施

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> ・第2回「慢性呼吸器疾患看護のセルフケア支援 参加者 51名（内医師4名） ・第3回「小牧ごっくんサポートチームの地域連携にむけて」参加者 73名（内医師4名）であった。 ・第4回「リハビリの基礎から在宅まで」、第5回「フィジカルアセスメント」を予定している。 ・今後の内容については連携する多職種からのニーズによって決めることが望ましいと思われる。 ・多職種連携研修については、第1回「通所系サービスの今後をみんなで考える～終末期の方の対応はどうしていますか？～」を開催。参加者 121名。第2回目を平成31年1月24日開催予定。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回「生きる力を支える歯科医療」参加者 55名（内医師6名） ・第2回「在宅に必要な精神科の基礎知識」参加者 82名（内医師7名）であった。 ・第3回「在宅に必要な泌尿器科の基礎知識」 ・第4回「市民病院認定看護師による勉強会」 ・第5回「摂食嚥下（小牧ごっくんサポートチーム）評価スコア2020小牧版」研修会を予定している。 ・第1回「在宅医療・介護連携研修会」災害をテーマに開催 参加者 83名 ワールドカフェ方式 ・第2回令和2年1月23日に予定 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護連携の場として勉強会を継続している。医師の参加はまだ少ない。勉強会のテーマについて医療介護関係者のニーズを把握し企画する事が必要である。サポート会議などで関係者に問いかけていく。 ・また、勉強会を継続するには、開催方法について検討が必要である。 	<p>磯村委員</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・10月17日（水）看護部会研修会として、小牧市ふれあいセンターにおいて、「冬の感染対策～インフルエンザやノロウイルスの感染対策と吐物処理の実技～」を小牧市民病院感染認定看護師を講師として招へし開催した。（97名の介護・福祉職の方が参加） ・これからの季節に起こりえる感染対策の研修は、実技を取り入れ行われたことで分かりやすく、現場での対処方法の一助になったと思われる。 ・今年度の研修会等の予定はないが、他部会からの要請があれば協力していく方針である。 	<p>【岡委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2カ月に1回の定期部会を開催し、事業者連絡会や外部委員会での情報を共有している。また、訪問看護における問題点や課題などを話し合っている。 ・看護部会主催の研修会を、11月13日（水）18時30分から20時30分で開催。テーマ：「エンドオブライフ・ケア 始まりの一步（仮）」 対象：小牧市にある医療と看護・介護・福祉サービスに携わる方 講師：久保田千代美氏・鈴木裕美氏（看護師）（エンドオブライフ・ケア協会認定ファシリテーター、iACP公認もしバナマイスター） ・訪問介護・訪問入浴部会主催の研修会「褥瘡予防」講師として協力していく。 	<p>【岡委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護における人手不足に対する解決策の検討、また、問題点や課題を発掘しても適切かつ迅速に解決策を見出すための検討時間が現状では図れない。 ・研修会にあたり、講師と具体的な運営要項の作成中。研修会開催にあたり、参加者への告知、会場、謝金設定など ・訪問介護・訪問入浴部会主催の研修の内容を詰めていく必要がある。 	<p>岡委員</p>

(カ) 医療・介護関係者の研修

(1) 多職種連携研修の実施

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>・平成30年度は医療と介護の職種間の情報交換会の予定はなし。</p> <p>・市の事例検討会や、市民病院や在宅医療・介護連携サポートセンター主催の研修を周知し、個々で参加する。</p> <p>⇒ 研修過多な声も出ているが、ケアマネジャーや訪問看護が必要な研修を取捨選択してもらうようにする。</p>	<p>【大野委員】</p> <p>・現在ケアマネの会が開催する検討会、研修会はケアマネジャー間のネットワーク作りや専門的技能の向上に重きをおいた内容となっており、今年度においても当会が主催する医療と介護の職種間の情報交換会等は予定していない。</p>	<p>【大野委員】</p> <p>・介護保険制度の要の職種として、多職種連携の情報交換会は必要であるため、今後はそれぞれの職種の方に負担がかからないよう調整を行い開催していきたい。</p>	<p>大野委員</p>
<p>・地域包括支援センターの各部会においても、事業を計画する時に、他の機関が行う研修内容や研修時期を意識して重複しないように工夫している。</p>	<p>【小林委員】</p> <p>・五者連絡会等を通じ、他機関が行う研修内容や開催時期が重複しないように工夫している。</p>	<p>【小林委員】</p> <p>・各機関がそれぞれの想いで研修を企画し、研修過多とならないよう、全体を通じてのテーマ設定等が必要である。</p>	<p>小林委員</p>

(カ) 医療・介護関係者の研修

(2) 在宅医療・介護の連携研修、勉強会等の実施

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> ・現在、行っている5者連絡会ではケアマネジャーに関する研修の日程調整を行うとともに、相互の情報交換を行っている。 ・今後も課題を共有し、研修テーマについて話し合い効率的・効果的な研修の実施を図りたい。 ・研修計画はケアマネ連協のホームページに掲載中。 	<p>【田中委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/22に5者連絡会を開催。ケアマネジャーに関する研修日程の調整を行い、現在のケアマネジャーの課題について検討を行う。 ・現状からはガン末期患者、精神疾患の家族、ごみ屋敷等のケースへの対応が困難とのこと。 ・今年度はこれらの課題に対して主任ケアマネジャーによる研修企画部会で研修を企画し実施している。 	<p>【田中委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から研修企画部会を編成して研修を計画し取り組んでいる。今後も医療連携の課題をテーマに研修を企画していく予定。 	<p>田中委員</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「身体に係る圧の影響と対策」をテーマに、モルテンによる勉強会を8月29日に開催 ・ケアマネカレッジで、「効果的なりハビリの活用」をテーマに12月18日に開催予定 	<p>【大橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「在宅における福祉用具の選択について」～より安全なより良い生活のサポートを考えて～をテーマに美濃庄による勉強会を8月28日開催 ・神経難病講座（春日井・小牧）にて7月19日に講師として参加。 ・ケアマネカレッジは依頼があればお受けする。 ・会員向けの勉強会を他業種の方にも参加していただく。 	<p>【大橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員による勉強会担当とすると、継続性を保てるかが課題である。 ・他業種の方の参加を促す手法について課題である。 	<p>大橋委員</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・同行訪問研修は、医療機関を対象に、アンケートを実施し、6医療機関が同行、見学可と回答をもらっている。 ・同行訪問研修の実施に向けては、アンケート調査実施後、実際の取り組みに向けて、検討中である 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同行訪問研修については、まだ実施に至っていない。今回の在宅医療に関するアンケート調査に同行研修について尋ねており、機会があれば同行したいと考えているとの回答があるので、今後取り組みに向けて検討する。 	<p>【磯村委員】</p>	<p>磯村委員</p>

(キ) 地域住民への普及啓発

(1) 市民向け講演会の実施

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、平成31年2月16日、まなび創造館あさひホールで開催予定。 ・小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター会議の中で、市民講演会の内容等の検討をしており、「認知症」をテーマにした寸劇を取り入れた講演会にする予定。 	<p>【入江委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、令和2年2月8日、まなび創造館あさひホールで開催予定。 ・小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター会議の中で、市民講演会の内容等の検討をしており、こまき山劇団による「わた史ノートと ACP」をテーマにした寸劇を取り入れた講演会にする予定。 	<p>【入江委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの方に来場してもらうために、医療・介護関係者、市民に対する周知・啓発が課題である。 	入江委員

(2) 在宅医療・介護に関する普及啓発

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> ・9/15号広報こまきに掲載。 ・ケーブルテレビで市政情報として、周知。 ・小牧市社会福祉協議会のサロン巡回（モデル事業）に同行させていただき、啓発。 ・サポートセンターの啓発グッズ（クリップ）を作成し、今後、さまざまな機会を通じて、配布していく。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケーブルテレビで市政情報の放映終了後、市政情報とサポートセンターの役割を合わせた啓発の地デジ放映を今年度「第一病院外来」にて半年放映している。 ・各事業所を訪問しサポートセンターの啓発を行っている。（ちらし、啓発グッズ） ・奇数月の15日号の広報こまきにおいて、「在宅医療とは」として啓発コーナーを設け、サポートセンターの周知を実施している。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も医療介護関係者、市民へのサポートセンター啓発は継続していくが、啓発方法の検討が必要である。 	磯村委員

(キ) 地域住民への普及啓発

(3) サロン等における在宅医療・介護に関する取り組み

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> ・サロンへの歯科医、歯科衛生士派遣：3回依頼 	<p>【佐々木委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア推進課に講座の派遣機会を募っていただき、サロン等に出向いた。 ・サロンからの講座希望をお断りすることが無いように調整し、実施中。 ・今年度は、民生委員の会議（6地区）、サロン連絡会（サロン代表者）などで講座を実施したことで、派遣を希望されるサロンが増えた。 	<p>【佐々木委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座を担当できる人材を育てる必要がある。 ・講座の回数を増やし、多くの市民に聴講していただけるように周知、啓発する。 ・次年度についても、総会等での講演は効果的であると考えるため、実施したい。 	<p>佐々木委員</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・膝腰スッキリ体操：前回の協議会以降、3回実施 今後、2回実施予定 ・こまき山体操：4回実施 ・こまき山体操の普及啓発に向けた教室が開催予定であり、市から依頼有 ・サロンへのリハビリ専門職の派遣：5回実施 (同一サロンに2回派遣を含む) ・サロン立ち上げの手伝い（5回コース） 11月から1件で実施予定 	<p>【大橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膝腰スッキリ体操：4回実施。今後4回実施予定 ・こまき山体操7回実施。今後も依頼があれば随時対応（11月11日予定） ・サロン派遣：8回実施 	<p>【大橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロン派遣や体操指導の対応ができる会員の数と質の維持が課題である。 	<p>大橋委員</p>

(キ) 地域住民への普及啓発

(4) わた史ノートの普及・啓発

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> ・わた史ノートの出前講座は、3回開催。 ・地域包括支援センターが主催するわた史ノートの普及啓発は、6回開催。 ・中学社会科副読本「小牧」については、掲載されることが決定した。冊子については、来年度から配布され、活用される予定である。 	<p>【入江委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わた史ノートの出前講座は、4回開催（H30） ・地域包括支援センターが主催するわた史ノートの普及啓発は、12回開催（H30） ・中学社会科副読本「小牧」にわた史ノートの関連記事が掲載され、中学生に配布された。 ・ACP、わた史ノート、エンドオブライフケアなどの用語が混在しており、その用語の意味や目的を整理し、理解するため、関係者で「生き生き人生プロジェクト」が立ち上がり、検討中である。 	<p>【入江委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトで検討した後、専門職に対し、普及・啓発し、その後、住民に対し、普及啓発していく必要がある。 ・生徒向けには、中学社会科副読本「小牧」の活用併せて、福祉教育の充実に向け、検討する必要がある。 	<p>渡邊委員 小林委員 入江委員</p>
<p>【包括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロン巡回時や民協等でも「わた史ノート」の啓発を行っている。 ・各圏域の包括でも、少しずつ出前講座の依頼がきている。 ・エンディングノートとの異なる点を強調し、受講後は、今の自分の気持ちを分かってもらうことの大切さ、それについて話し合えるきっかけ作りに役立つこと、またこれからの過ごし方を改めて考え直している機会になっている様子。 ・今後は、出前講座の後に、振り返りの機会を設け、よりノートの使い方を充実させるものにしていきたい。 	<p>【小林委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座として依頼がくるのが少なく、包括として、老人会、サロンなど様々な機会を通して「わた史ノート」の啓発を行っている。 ・啓発の際、実際にノートに記入して頂くなど座学だけで終わらず、活用して頂くよう努めている。 	<p>【小林委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ACP（人生会議）という言葉も使われ始め、言葉だけが一人歩きしないよう、「生き生き人生プロジェクト」の検討状況を理解した上で啓発を行う必要がある。 	

(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

(1) サポートセンター連絡会議

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 27～29 年度 3 年間継続してきた尾張北部医療圏「在宅医療・介護情報交換会」を 4 月から月 1 回継続開催している。 平成 30 年度になってから、各市町のサポートセンターの状況も変わりつつある。(例：訪問診療医師が施設に出向き、ケアマネジャーとの顔の見える関係づくりを行なっている。年度初めに市の広報に「出前講座」について掲載し依頼がきたら担当専門職に依頼する、災害について取り組みかたの検討等) 連携シートの広域化など、広域的な視点の調整について、情報交換会に期待されているところであり、継続して協議していく必要がある。また、必要に応じて、提案等のために、行政の同席などを求めていく必要がある。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度も尾張北部医療圏と近隣のサポートセンター、保健所にて月 1 回在宅医療・介護情報交換会を開催している 各サポートセンターの進捗状況だけでなく、講師を招いて勉強会を開催。また、各市町のサポートセンターで「もしバナゲーム」体験を行なう。また、各市町の研修会に参加し医療介護関係者との連携強化も相談窓口のスムーズな対応に繋がっている。 医療介護連携シートについても広域な情報交換が可能な場である。 今年度、「在宅医療・介護情報交換会」が保健所主催で広域な会議として 10 月 8 日に開催される。在宅医療・介護連携推進事業の各市町の取り組みについて情報共有を行なう。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他市町で「地域包括ケアサミット」も開催されており、今後、「こまきつながるくん連絡帳」が広域化される予定であることから、今後も他市町との連携会議を継続していくことが大切と考えられる。 	<p>磯村委員</p>

(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

(2) 広域連携の推進

これまでの報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>【春日井保健所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月5日に開催した尾張北部医療圏域保健医療福祉推進会議の中で、「在宅医療・介護連携推進事業の各市町の取り組み」について議題にあげ、市町を超えて広域的に調整や検討が必要だと考える事項として共通しているのは①ICT を活用した情報共有の連携②入退院時の情報共有のための連携様式・ルールであるということを共有した。 ・ ICT について、広域連携の前に市町内での登録率がまだ低いという課題があがった。また、入退院の情報共有の様式やルールについて、江南保健所管内の市から、「尾北医師会地域ケア協力センター主導の退院時連携ワーキング部会で検討していたが、平常時の連携がまだ不十分であるため退院時の情報共有まで至っていない現状がある」という意見もあった。 	<p>【水野委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅医療・介護サポートセンターが毎月実施している尾張北部医療圏「在宅医療・介護情報交換会」について、今年度は10月開催分を保健所主催とし圏域内行政の担当にも出席いただく。情報交換内容(予定)としては、「医療、介護関係者の情報共有支援」、「終末期に向けた支援(看取り・ACP等)」、「事業の目標値や評価指標の設定」等 ・ 愛知県看護協会尾張北部支部と保健所の共催で「地域での看取りを知り、共に考える」をテーマに医療圏内の関係者向けに研修会を開催する。(10月30日) 	<p>【水野委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、行政も含めた医療圏内での情報交換会の開催について内容、頻度等検討が必要。 	<p>水野委員</p>